

「スタート」 利尻町立利尻中学校 教諭 柴田 健斗

今日も教室の四隅で、さまざまな会話が繰り広げられている。決してクラスの中でグループや派閥できているわけではない。離れたところにおいても、気になる話題が聞こえたり、他の所で笑いが起きていると、「何があった?」「どうしたの?」と一点に視線が集まり、説明を聞くと、今度はクラス全体で大きな笑いが起きる。私は、そんな毎日を懐かしく思うと同時に、平和で温かい3年生に元気をもらおう。

5月に行われた体育祭では、全員で協力して助け合いながら目標の達成を目指し、後輩には丁寧に教える。3年生のどんな時も誰一人として置き去りにしない姿は、いつも印象に残る。

そんな3年生でも話し合いがまとまらない時がある。文化祭でそれぞれが担当するダンスを決める。どうしても後1枠が埋まらない。刻々と時間が過ぎる。

1人の生徒が「俺やるよ」と、自分が踊りたかったダンスから、足りないピースを埋めるように移動した。「移動したら俺ってこっちは踊れない?」「覚えることができるなら何個踊ってもいいよ」「まじ?やったー」と言ってニヤける。この一言で一気にクラスの雰囲気が見えるようになる。

3年生を見ていると全員のキャラクター・個性がどれもプラスに見える。人は良いところより、悪いところの方が目立つものだが、そうはならない、そうはさせない不思議な空気感がある。

生徒同士はこれまでの生活の中で、それぞれの良いところも、きっと良くないところも理解している。だからこそ、気を遣いながらも、友達の良くない言動を指摘できる。指摘された生徒も、良くなかったことを素直に認める。時には、指摘の仕方が良くない時もある。そんな時は指摘の仕方が良くないことを注意する人もいる。ただ、責めるのではなく相手のために思って言っているのが伝わる。

教員1年目、こんなクラス他にありますか?と自信を持って、胸を張って言えるくらい素晴らしいクラスに出会うことができた。今の3年生の姿はこの学級の完成形であると思う。もちろん完成形は多様であり、そのクラスの特徴に応じた成長の形がある。次は自分が担任になり、その生徒たちにとって最高の学びの場となるよう全力で支えていきたい。